

大山の森だより

2022年冬号

大山の冬の動物たち

2022年は、10月25日に大山の初冠雪が観測されました。12月も半ばを過ぎると大山は白一色の世界に変わります。冬眠する動物としてはクマが有名です。大山でもツキノワグマが時々目撃されますが、定住はしていないと言われています。中国山地から大山に迷い込んできたクマは冬になるとどこかへ移動してしまうようです。それは大山には冬眠に適した大木のウロや洞窟が少ないかららしいです。

大山でよく見かけるアナグマも冬眠します。ただし眠りは浅く、しばしば目覚めて活動すると言われます。私は冬に目撃したことも足跡を発見したこともありません。アナグマはクマの仲間ではなくてイタチの仲間です。

キツネ、テン、ノウサギは、雪の上にはたくさんの足跡を見ることができます。夜行性なのでなかなか実物には会えませんが、スノーシューで森を歩いていた時にノウサギが木の根元から飛び出してきてびっくりしたことがあります。大山のノウサギは冬になっても毛が白くなりません。またニホンリスを目撃したこともあります。

秋に隠しておいた木の実を食べているのでしょう。

シカやイノシシは雪の浅い山麓へ移動しているようです。



冬期 自然ふれあい事業 活動報告

○横手道 秋の木の実草の実観察会

開催日：10月8日



森や草原で、木や草の種子散布の方法をじっくり観察しました。種子散布の9つの型を書いたビンゴゲームをしながら、秋の大山を楽しみました。

○阿弥陀堂周辺の知られざる遺跡を探る

開催日：10月22日



2つの古地図と遺跡分地図を見ながら、阿弥陀堂周辺の森に残る謎の寺院跡や道を検査。かつての大山寺寺院群に想像を巡らせました。

○奥大山古道ウォーク(共催事業)

開催日：11月13日



2年ぶりにウォークを実施。心配された雨も降らず、標高900mの鍵掛峠から標高600mの御机・下蚊屋集落までの紅葉を堪能しました。

○大山寺 利生水周辺の謎の遺跡を探る

開催日：11月19日



高僧行基の伝説が残る利生水。その上の山に点在する謎の平地と古道を探検。谷奥の謎の人工台地を臨み、永い歴史を偲びました。

※9月18日のイベント「自然観察とオルガニート演奏会」は台風接近のため中止しました

■自然公園財団では、季節ごとに観察会などを開催しています。

予約なしでも参加できるイベントもありますので、是非ご参加ください。

裏面にイベント情報を掲載しています。

ナナカマド

大山の伝説の樹木



晩秋から初冬にかけて、大山の森を赤く色づいた葉と実で鮮やかに飾るのがナナカマド(七竈)の木です。大山では実が豊作の時は大雪と伝えられています。ナナカマドは北海道から九州までの深山に分布するバラ科ナナカマド属の落葉高木で、四季を通じて見所があります。

花: 開花は初夏(6~7月)で、直径6~8ミリほどの小さな花が集まって直径15~20センチの房状になります。花は純白で美しいですが、独特のいやな香りがあります。



葉: 葉は縁には浅く鋭いギザギザがある小さな葉が4~7対集まって、長さ15~20センチの羽根状になります。小葉は細長い楕円形で先端が尖ります。寒冷地では早い時期から葉を展開して春の訪れを告げ、秋には美しく紅葉します。

幹: 成長が遅い樹木で、幹の直径は最大30センチほど。材が堅く、7回カマドに入れても燃え尽きないというのが名の由来とされています。乾燥した材はよく燃えて火持ちが良く、炭は備長炭の代用になるほど高品質です。また材は緻密かつ重厚なので、器具や細工物に使われます。

実: 秋にできる果実は直径5~6ミリの球形で、枝先にまとまって垂れ下がる様子がみごとです。赤く熟した実は落葉後もしばらく枝に残り、雪中に赤い果実が美しく映えます。遅くまで食べ残されるのはとても苦いため。冬の寒さの中で糖度が上がっていくと少しずつ苦味が減少し、鳥たちの食料となります。また長期間、実が腐らないのは、実に含まれるソルビン酸の成分があるから。食品業界では、ソルビン酸は細菌やカビの増殖を防ぐ保存料として使用されています。



豆知識: 生け花の世界ではライデンボク(雷電木)、あるいはライデンと呼ばれます。この別名は、「赤実成り木(あかみなりき)」の「あ」が忘れられて「かみなりき」になったことに由来するらしいです。昔は、火災除けの木、落雷除けの木とされ、神社や城郭にも植えられたとか。

● 大山の七釜樹の伝説 ●

大山ではナナカマドのことをナナカマノキと呼んでいます。「七竈」ではなく「七釜樹」と書きます。14世紀半ばごろに編集された大山寺縁起にその由来に関わる説話があります(大山寺縁起 22章)ので、下記に概要を紹介しします。



大山寺縁起絵巻より部分

「大山の生身の地蔵と岩船の地蔵坊」

備後の国(広島県東部)神石に弘誓坊という修行僧がいました。彼は長年、地蔵菩薩を信仰し、たびたび伯耆大山へ参拝していました。あるとき生身の地蔵を拝みたいと願って寝たところ、夢で「下野の国(栃木県)、岩船に行け」とお告げがありました。

岩船について弘誓坊は、地蔵坊という僧がたびたび奇跡を起こすのを見て、彼こそが生身の地蔵に違いないと確信しました。しかし地蔵坊から「本当の地蔵は伯耆大山にいる」と告げられ、早く帰るように諭されました。

弘誓坊が急いで大山に帰参すると、そこには地蔵坊が以前から大山にいた僧のような様子で待っており、声をかけるとすぐに姿を消しました。大山権現と岩船の地蔵坊は同じ地蔵菩薩だったのです。

また弘誓坊が地蔵坊から帰路にもらった一包みの白米は、長い道中も尽きることがなく、伯耆大山の僧や参詣者にも分け与えられたということです。



大山寺縁起絵巻より部分

この大山寺縁起の説話は、大山権現(地蔵菩薩)の功德と下野からの参詣者が多い理由を伝えるもので、ナナカマドについては記載がありません。

大山ではその続きとして、残った米を埋めたところ、そこからナナカマドが生えてきたという伝説があります。7つの釜で炊いても尽きることがなかったので、大山ではナナカマドを七釜樹(ナナカマノキ)と呼ぶようになったとか。伝説のナナカマドの木は昭和3年まで大山寺本堂(元大日堂)裏にあったそうで、現在はその場所に由来塔が建っています。

また下野の岩船にも大山寺縁起と同じような伝説があります。

ただし弘誓坊は大山寺の高僧で、岩船で出会った僧は伊賀坊。そして岩船山で光り輝く地蔵菩薩に会い、大山寺へ帰ったことになっています。翌年、弘誓坊が岩船に戻ったところ、伊賀坊のことを知る人はおらず、弘誓坊がその地に寺(岩船山高勝寺)を建てたと伝わっています。関東地方の地蔵信仰は、この岩船山高勝寺が発祥だそうです。

コラム:冬の赤い実

秋から冬に野山で見られる木の実は、ナナカマドも含めて赤色の小さい果実が圧倒的に多くなります。

木の実が赤い色をしている理由は、目の良い鳥に見つけもらいやすくするため。鳥に果実を食べてもらい、種子を遠くに運んでもらえるように、冬に実をつける植物は小さな赤い実をつけるように進化したとも言われています。種は消化できないので、鳥の糞(ふん)となって地上に落ち、そこから新しい命が芽吹きます。冬の赤い実を食べにくる鳥たちは、ヒヨドリ、ツグミ、メジロ、ムクドリ、キジバト、キレンジャクなど。



また昆虫類は赤色を認識できない(アゲハチョウ類は除く)ので、害虫に赤い実は目立たないそうです。



ーイベント情報（1月～2月）ー



■自然公園財団のイベント

<p>○スノーシューで行く大山・幻の滝(稚児滝) 開催日：1月14日(土) 9:00～12:00頃 会場：豪円山周辺 集合場所：自然公園財団事務所前 参加費：1500円 ※スノーシューレンタル料別途1000円</p>	 <p>かつて呼瀧山と呼ばれた豪円山。その幻の滝を見に行きます。垂直の岩壁に張り付く氷が神秘的な美しさ。大山の隠れた名所です。スノーシュー歩行距離約2キロ。 定員15名 自然観察</p>
<p>○幻の御旅所？から絶景を見るスノーシューツアー 開催日：2月4日(土) 9:00～12:00頃 会場：大山寺金門周辺 集合場所：自然公園財団事務所前 参加費：1500円 ※スノーシューレンタル料別途1000円</p>	<p>御旅所とは神が巡行する聖なる地。古地図で御旅所跡と描かれる高台の平坦地を目指します。高台から見る美保湾は絶景。巨大な風穴(氷室)も探検します。スノーシュー歩行距離約2キロ。 定員：15名 歴史探訪</p>
<p>○スノーシューで行く 願掛け地蔵へ願いを込めに 開催日：2月25日(土) 9:00～12:00頃 会場：金門・賽の河原・寂静山周辺 集合場所：自然公園財団事務所前 参加費：1500円 ※スノーシューレンタル料別途1000円</p>	<p>かなえない願いはありますか？大山に伝わる願掛けの方法で願掛け岩とそのそばに佇む地蔵まで願いを込めに行きましょう。 スノーシュー歩行距離約3キロ。 定員15名 癒しの体験</p> 

注意：大山博労座駐車場は、だいせんホワイトリゾート・スキー場営業期間は有料(1日1000円)となります。

■周辺のイベント■

「大山寺節分会」

問い合わせ：大山寺(0859-52-2158)

2月3日(月)10:00～ 会場：大山寺本堂 祈祷料1000円

大山寺では毎年2月3日に、本堂で「節分会」という法要を行っています。

節分会では大般若経600巻の※転読と豆まきが行われ、邪気を払うとともに福を招き寄せます。

深い雪に覆われた大山の神聖な行事にご参加ください。

※転読とは、大般若経を弧を描くようにバラバラバラっと流し読む事。

注：新型コロナウイルスの影響で中止になる場合があります。



一般財団法人 自然公園財団 鳥取支部 大山事業地



〒689-3318 鳥取県西伯郡大山町大山40-33

大山ナショナルパークセンター(大山 NPC) 1階

TEL:0859-52-2165 FAX:0859-52-2370

URL <http://www.bes.or.jp/daisen/>

